

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)	企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時	平成 2 3 年 1 1 月 1 6 日 (水) 午後 7 時 ~ 9 時 0 0 分		
開催場所	市役所本館 2 階第 1 特別会議室		
出席者	委 員	1 0 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人 (別紙のとおり)	
	事務局	6 人 (市民部長、区政支援課長、他 4 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会議次第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 委員紹介 5 新たな火葬場のあり方等検討委員会設置要綱について 6 委員長、副委員長の選出 7 議 事 (1) 会議の公開について (2) 今後の検討事項及びスケジュールについて (3) 市営斎場の現状と課題 ア 立地状況について イ 市営斎場の概要について ウ 火葬件数の将来推計について 8 その他 9 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 新たな火葬場のあり方等検討委員会設置要綱について
- 6 委員長、副委員長の選出

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長から各委員への委嘱状交付とあいさつを行った後、各委員による自己紹介を行った。

その後、事務局より資料1に基づき、検討委員会設置要綱について説明を行い、同要綱の規定に基づく委員長・副委員長の選出を行った。

委員の互選により、委員長に後藤純雄委員、副委員長に池田珠三子委員が選出された。

7 議 事

(1) 会議の公開について

事務局より、会議及び会議録の公開について説明を行った。
傍聴が認められ、傍聴者1名の入室が許可された。

(2) 今後の検討事項及びスケジュールについて

事務局より、説明を行った後、質疑応答を行った。

- 基本的なあり方、要綱では基本構想をまとめるとなっているが、内容のイメージは。例えば、配置、規模、あるいはソフトまで含めて考えるのか。提言書の後、どういう形のステップを踏んでいくのか。
- 基本構想としては、平成31年頃には火葬可能件数に達する見通しがあるため、それを解消するためにはどのような方法があるのか、方向性をまとめてもらいたいと考えている。

想定としては、現市営斎場の機能を強化するとか、周辺の斎場と連携していくとか、あるいは議会でも話題になっているが、新しい斎場、火葬場を市内のどこかに整備していくという方向などが考えられるので、そのような中で進むべき方向について、提言をいただきたい。

提言をいただいた後、さらに詳細な計画をたてて、実施に移していくというステップで考えている。

- 新規設置を前提で議論するのではなく、現市営斎場も含めて総合的に議論することか。
- 幅広く情報提供をさせていただきながら、どのような方法が良いのかを議論願いたい。

* 開催回数については、10回を基本とし、状況によって増減を考えるという事務局案で、承認された。

(3) 市営斎場の現状と課題

- ア 立地状況について
- イ 市営斎場の概要について
- ウ 火葬件数の将来推計について

事務局より、説明を行った後、質疑応答を行った。

- 旧津久井4町の市営斎場使用件数に関連して、平成22年度は408件となっているが、資料では旧4町が市外への依存度が一番高いと見てよいのか。
- 平成22年度の旧4町の死亡者数は計685名、内訳は旧城山町190名、旧津久井町263名、旧相模湖町98名、旧藤野町134名で、そのうち市営斎場を使った方が408名、59.6%、一番少ないところは旧藤野町で134名に対して22名の使用となっている。
- そうすると、将来を考えるよりも短期的に解決しなければいけない地域的な話と、それから後々は人口が多いところで火葬能力に達してしまうという長期的な話に分けて考える必要があると思う。地域的なニーズに偏りがあるため、地域的な工夫が必要だと思う。
- 予測としては、同じように死亡者数が増えていくと考えているのか。
- 将来推計の資料を見ると、平成50年位までは増えていくという見通しを持っている。
- 説明で現状はわかった。合併の問題、高齢化の問題、環境の変化が大きな問題としてあることも理解した。現状と将来推計がわかり、この次に斎場の視察をして、他のところの状況を見て、その後、あり方の検討に入っていくが、課題についての共通理解が不足していると感じる。課題を分けて考える必要があるとの意見もあった。資料を見ると、現市営斎場の建設には8年かかっており、平成31年頃には火葬可能件数に達する見通しの中で、この検討が終わって何年も経たないうちにその状況になってしまうことが最大の問題ではないか。津久井地域の方

にさらに利用してもらうための問題もある。

具体的に、行政として、対応すべきと考えている課題を明らかにしてもらわないと、どのようにまとめたら良いのかわからない。

- 大きな話として、物理的な問題がある。火葬件数が増加し、今の推測では平成31年頃には火葬可能件数に達する可能性がある。これに対しては、当然市の責任として、火葬需要に対応していかなければならない。対応の方法としては、現市営斎場の火葬能力を高めるか、新しい斎場をつくるかという二つと考える。

市街地に新たに斎場をつくることについては、近くにお住まいの方などを含めて、様々な問題がある。一昔前は迷惑施設のような話もあり、現在も斎場周辺では、渋滞などの問題がある。

もうひとつは、新しくつくる場合、当然時間がかかるということも課題である。

さらに、式場の問題もある。本市では、平成4年以前は、火葬炉のみだったが、現在の斎場からは、当時のニーズを踏まえ、低額で利用できる式場を整備した。そのあり方についても、見直し又は改修、もしくは新設を含めて課題であると思っている。

また、現在は、相当大きな待合室があるが、最近の傾向として、核家族化により葬儀も小規模化しているという問題や、価値観の変化により葬儀自体行わず、いきなり火葬を行うというケースもあり、これらに対して、現市営斎場のあり方、又は新設も含めてどのように答えていくのか、これらの課題について、皆様の意見を伺っていきたいと考えている。

もう一点、先ほど委員から指摘があったように、合併の経過の中で、旧藤野町の皆さんは、上野原市の斎場を使われている例が現状においても多いため、これに対するサービスのあり方も、さらに課題として検討をいただくものと考えている。

- 資料5に将来推計があるが、これはあくまでも相模原市民の分のみ。市外利用のうち、特に町田市が約三分の一を占めているが、町田市の現状がどうなっているのかということについての資料もあった方がよい。

- 周辺の利用状況についても、資料として用意したい。

- 利用状況と、今後の見通しもあった方がよい。

- 推計も含めて対応したいと思うが、他市町の資料については難しさもある。災害時には、より広域の連携になるが、通常時には、本市からの周辺利用と周辺市町からの本市利用は、600人程度での相互利用の状況となっている。ただし、津久井地域は、旧市に比べ市外の利用が多いという特徴がある。

町田市の状況をはじめ、周辺市町の状況も調べるが、町田市は、複数市による組合形式で運営しているため、状況把握が難しいことも予想される。できる範囲での確認ということで、了承願いたい。

- 周辺の斎場に聞いた範囲では、南多摩市営斎場、八王子市斎場、大和斎場は、本市と似た状況であり、火葬件数が増えていて、利用率も非常に高い状況である。上野原市葬祭場は火葬炉2基のみの非常に規模が小さい施設である。愛川聖苑は、厚木市民と相模原市民による町外利用が非常に多いという状況がある。どの程度把握できるかわからないが、状況については、できる限り把握し、お示ししたい。
- 市民サービスの観点から、市営斎場の概要に書いてあるとおり、市民は火葬料が無料という中で、例えば旧藤野町では134名亡くなったうち22名が市営斎場を利用したが、残りの112名は高額な市外としての使用料を払って火葬しているという状況がある。同じ市民でありながら、無料と高額な使用料という不公平感が如実に現れている。そういった面も含めた中で、今後あり方を検討願いたい。
- 他の斎場でも火葬炉の市外利用について、同様に使用料をとっているのか。
- 市外の場合、大体5万円前後、愛川聖苑が少し高めで8万円となっている。
- 資料5の下に火葬可能件数がある。友引日を除く通常日が年間300日、火葬枠19枠、年間計5,700枠とあるが、これは固定で、増やすことはできないのか。
- 現在、火葬枠を増やせないかという検討は行っている。9時30分から1時間おきに午後2時30分までの6枠について、各3体ずつの火葬が可能。3体×6枠＝18枠の他、午後3時からの予備1枠の計19枠となっている。時間ごと3体という根拠は、待合室との関係である。3体ずつ火葬が入ってくるので、待合室が3室ずつ埋まり、予備室を1室設けると、1枠4体の火葬は不可能な状況である。4体ずつだと8室待合室が必要になる。待合室が増えれば、火葬炉の基数としては増やすことは可能と考えている。
- 火葬炉としては、時間ごとに最大何体まで可能なのか。
- 最大4体までと考えている。実質10基での対応となるため、4基ずつでローテーションしていく形が考えられる。この場合1日の最大件数が19枠から25枠となる。
- 少し待合室の数を調整すれば、平成31年頃のピークが少し先に行き、時間が稼げるということか。
- ご指摘のとおりである。
- 大きな問題としては、他に何かあるのか。
- 新たな斎場ということになると、整備に時間がかかるということが課題になる。1日の火葬枠を増やして一時的な対応を図ったとしても、さらに限界が来ることへの対応が課題である。もう一点は、現市営斎場が供用開始から19年経過しているため、いずれ大規模改修を迎えるということがある。火葬業務は休めないことから、そのタイミングも大きな課題である。

- 一体の火葬には、全部で2時間位かかるとのことだったが。
- 身体の大きさなどによる。また、火を消した後、温度が下がるまで待つ必要もある。
- 炉の性能も変わっていると思われ、時間も若干異なると思う。
- 市営斎場のバーナーは、一方向からのみだが、二つの方向から出るものもある。交換するためには、設備全体を取り替える必要があり、費用が掛かるなど難しさがある。大和斎場は比較的新しい設備であり、10分から15分は短縮されていると聞いている。ただ短くすること自体についても意見が分かれるところがある。
- 新設が前提ではないが、選択肢の一つとのことだが、新設の場合の具体的な地域の想定などはあるのか。
- 地域の想定はない。先ほどの地域間のアンバランスという住民サービスの問題もある。キャパシティの問題、地理的に離れているというアンバランスの問題もある。そういう中で、新設という選択肢はあるが、場所等については、まだ具体的な想定は市としては持っていない。この委員会の中で、それも含めて検討願いたい。
- 仮に新たに建設するとなったら、そこから地域住民との色々な調整等がある。市営斎場あるいは他市の斎場の整備のデータ、新たにつくった場所で、どの位の期間で、どの位のエネルギーを掛けてつくったのかというようなものがあるとよい。

選択肢の一つであり、そこに焦点を絞る話ではないにしても、住民の人がどう考えていたのかというところを理解するうえでも、その様なデータも必要だと思う。
- 他市の例などもある程度把握できているものがあるので、用意したい。
- 関連して、古淵にあるということで、現状、市営斎場の近隣から何か声が出ているのか。あるいは古い施設だから煙突が気になるなどの声が出ているのか、併せてまとめておいてほしい。
- 地元市との連絡協議会の組織を設けており、平成4年に整備して以来、続けて来ている。平成4年の整備前は、臭いの問題などもあったと聞いている。建て替えの際には地域の住民の方々から心配される声はかなりあったと聞いている。先日も協議会が開催されたが、現在は臭いについては、問題ない。課題としては、会葬者が多い葬儀の際の交通渋滞の問題で、年に数回、周辺の方が帰って来れなくなるなどの状況があると伺っている。住宅地との境の植栽の手入れなどについても要望をいただいている。
- 旧津久井4町と合併しなければ、個人的に、この問題は俎上に上る問題ではなかったと考えている。旧市では新たにもう1箇所設けるという話は考えられない。いくら高齢化が進んだとしても、今の火葬炉をどうするのかとか、隣の東清掃の

土地があれば、そこに若干でも敷地の拡張ができないかなど話になると個人的には思っている。

そういう意味で考えると、やはり合併をしたことによって、旧藤野町の状況はつらい。せっかく合併したのに、高いお金を払って、近くの火葬場を利用しないとならない。ソフトの話もある。補助金ですむなら補助で対応していただくという考え方もある。これも新設よりはるかに安いと思うが、それで収まるかどうかという話はある。

津久井地域の問題は、津久井地域の問題として、きっちり捉えて、それを解消する手立てを、住民感情をどうするのかということ、サービスの公平性をどうするのかということをしっかり議論してから、新設か現斎場の活用かなどを考えていく必要がある。

現斎場が、例えば拡張できる可能性があるのか、恐らく検討は若干していると思うが、全く手がつけられない状況なのか、場合によっては、内部を改修することによって、7年から8年後のピークをクリアできると思われているのかどうか、その辺の状況を踏まえていかないと、議論が展開できないのではないかという気がしている。

- 現市営斎場の建て増しについては、地元との協定があり、建物自体を増築することはできないこととなっている。例外として、屋外のトイレは増築させていただいた経過があると聞いている。

したがって現在の市営斎場の建物を広げるということは、難しい状況。先に話があった、炉の機能を高めていくことは、内部の話であり、可能と考えている。

- 町田から受け入れるときの申し込みの受け方について、基本的には空いていれば市内でも市外でも先着順で受け付けるということか。
- 市内に住所がある人については、市内優先枠を設けている。優先枠であっても、前日の午後3時の時点で空いていれば、市外の方にも使ってもらえることはできる。
- 先ほど選択肢で周辺地域との連携もあると言っていたが、周辺地域というのは県境をまたいでもいいのか。特に制約はないのか。
- 相模原市は市営斎場を独自で持っているため、現実的には連携という考え方は難しいと思っている。現斎場の機能を高めるか、独自でもう一つ作ることになるのではないか。町田市は複数の市による組合形式で運営している。災害時には、もっと広域の対応もある。
- 広域連携のような形で、こちらから話を持ち掛けて、県境をまたぎ、南多摩斎場、八王子市斎場、上野原市葬斎場などと連帯して、その枠の中で動くような考えはないのか。
- 本市には市営斎場があるので、新たに整備するという手法がオーソドックスであると考えている。例えば、愛川聖苑と共同運営のような形にして、愛川聖苑を

使った場合には、相模原市民も無料にするというようなことが、できるかどうかは検討していないが、論点として考えていく必要があると考えている。

- 民間の斎場はまったくないのか。相模原市とか周辺の市町村にはないのか。
- 民間の火葬場については、横浜市や都内にはあるが、本市や周辺市町村にはない。

8 その他

- スケジュールの中で、次回は、市営斎場の視察を提案したが、本日の議論の中で、かなり具体的な内容で討議をいただいたので、次回も会議形式とし、論点整理や資料の提供を行い、話し合いができればと考えているが、いかがか。

〔一同了承〕

- 次回の会議日程については、再度調整し、連絡したい。基本的に今回と同じ時間帯で考えたい。1月を目途に考えたいが、いかがか。

〔一同了承〕

9 閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 学生		出席

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)		企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時		平成 2 4 年 1 月 2 5 日 (水) 午後 7 時 ~ 8 時 5 0 分		
開催場所		市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	7 人 (市民部長、区政支援課長、他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 検討委員会の進め方について (2) 市営斎場に係る課題と対応について 4 その他 5 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

- 1 開 会
- 2 あいさつ

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長からあいさつを行った。

- 3 議 題

冒頭、委員長より傍聴希望者の有無について確認され、事務局より傍聴希望者が
ない旨報告した。

- (1) 検討委員会の進め方について

事務局より、検討委員会の役割、提言のイメージ、提言の取り扱いなどについ
て説明し、確認。

- (2) 市営斎場に係る課題と対応について

【検討の進め方について】

事務局より、検討の枠組みについて説明を行うとともに、今後の検討の進め方
については、市営斎場が直面している火葬件数の増加などの課題について共有化
を図った上で、想定される「対応策」(市営斎場の機能拡充、新斎場の整備、周辺
火葬場との連携など)の順に検討を進めることを提案し、承認された。

- 課題、対応策、結果について説明があったが、本当の課題は、予算がないこ
とではないのか。予算が潤沢にあれば、どこに新斎場を建設するかを決めるこ
とで、概ね課題が解決されると思われる。
- 市として新しい火葬場を整備するという意思決定はまだ行っていない。この
場でその必要性も含めて検討していただきたい。新しい火葬場を整備するとな
れば、財政の問題、場所の選定の問題などは大きな課題であると考えている。
- 火葬件数のピークはいつ頃になるのか。
- 人口推計が平成50年までしかないが、少なくとも平成50年までは増加傾
向となっている。
- 同じ市民でありながら、地域によって市民サービスの格差があるため、課題

の中に、「地域間格差」を追加すべきではないか。

- 「周辺施設への依存」という課題に、「地域間格差」の問題も含めて考えている。今後、「対応策」の「周辺火葬場との連携」の中で、検討をいただく予定。

【火葬件数の増加について】

事務局より、今後の課題である「火葬件数の増加」について説明した後、質疑応答を行った。

- 17年の国勢調査と今回の補正した推計における生存率は、どれくらい差があるのか。
- 手元に数値がないので、後ほど報告したい。
- 死亡者数の実績値と推計値の乖離はどの位あるのか。
- 死亡者数の実績は、推計値より200人程度少なくなっている。
- 平成31年か32年頃に火葬可能件数を超過してしまうという推計を踏まえると、あと7～8年位しかなく、仮に、新しい火葬場をつくるとなっても、すでに手遅れという感じがする。この委員会のスタンスと現状が合っていないのではないか。
- 新しい火葬場の建設だけを考えた場合には、現実的にあと7～8年というスケジュールでは厳しい。そのため、現斎場の改修などにより、火葬可能件数を増やす方策についても検討を行っており、それらについても併せて協議をお願いしたい。
- 現斎場の改修などで火葬可能件数を増やしたとしても、それだけで解決できるとは思えない。
- ただ平成31年、32年を待つのではなく、その間にできることから実行に移していきたいと考えている。
- 周辺施設の改修計画等の状況はどうか。
- 具体的な計画は把握できていないが、各施設とも老朽化は課題となっている状況である。
- 新しい火葬場を整備すれば、すべての課題が解決するように思われるが、実際には、財政上の問題など、支障となるものがあるのではないか。
- 新しい火葬場を整備する場合には、相当の事業費が必要となる。現斎場の場合でも約77億円の経費がかかっている。現在の市の財政状況も厳しいことから、民間の資金を活用して施設整備を行うPFIの手法などについても、併せて検討を行う必要があると考えている。
- スケジュールを含めた短期的・長期的な対応のシナリオをいくつかつくり、検討できるようにしてほしい。

- 今後お示ししたい。
- 現斎場の改修を行ったとしても、将来的には新しい火葬場の整備は避けられないものとするが、新しい火葬場の整備も視野に入れて検討を進めることについて、行政の考えはどうか。
- 市民部としては、今後の検討の結果、新しい火葬場が必要となれば、それを受けて進める必要があると考えている。
- 今後の「対応策」の検討にあたっては、メリット、デメリットを示してもらった上で、検討していきたい。新しい火葬場もよいとは思いますが、子供の将来に負担を残すことにもためらいがある。そうしたメリット、デメリットを分析し、方向性を出していく必要があるのではないかと。
- 新しい斎場が必要とされた場合でも、どのようなものを作るのか、現斎場と同規模が必要なのかどうかなど、様々な議論がある。
- 火葬件数の将来推計のグラフは、縦軸の下の部分が現れていないので傾きが大きく見えるのではないかと。
- 傾向を強調したグラフにしている。

【市営斎場の機能拡充について】

事務局より、想定される「対応策」のうちの「市営斎場の機能拡充」について説明した後、質疑応答を行った。

- 火葬炉は1日に何回も使えるものなのか。各時間帯で3件となっている火葬件数を4件にできれば、相当火葬件数が増やせる。次回以降、待合室の改修による対応について、方法や経費も含めて検討状況を示してほしい。
- 資料を提示できるように準備する。
- 火葬炉の稼働率を上げる方法として、火葬時間の短縮や早朝、夜間の火葬などが挙げられているが、効率性のみを追及するのではなく、遺族の感情にも配慮する必要があるのではないかと。
- 実施可能な選択肢として示しているが、実際に早朝や夜間に火葬を行ったとしても、利用がない可能性もある。また、火葬時間についても、ご遺族の心情を考えると、単に短ければよいのかという問題もある。
- 火葬は、10基の火葬炉を順番にすべて使っているのか。
- 10基の火葬炉すべてを順番に使用している。
- 待合室は40人も使うのか。最近、何度か市営斎場を利用したが、20人位だった。
- 最近では、待合室の利用者も少人数化している。待合室を利用される1組当た

りの人数では、約65%が20人以下となっている。そのため、40人の部屋を分割して、20人の部屋にしても対応は可能と考えている。

- 地元との関係で、施設の規模は拡大できない様だが、他に課題となっていることはあるのか。
- 現斎場の周辺自治会で斎場連絡協議会を組織し、斎場の課題等について協議をしてきている。現在は、斎場に指定管理者制度を導入することについて、協議していただいている。その他の課題としては、年に数回、大きな葬儀の際の交通渋滞が挙げられている。
- 式場に待合室があるが、式場の利用状況はどうか。
- 式場の利用率は9割以上で、ほぼ埋まっている状況。
- 11時30分と0時30分の各1枠は、式場の控室を使っているため、待合室は空いている。それを利用することは考えられないか。
- その時間帯は、待合室が1室ずつ空いているので、そうした方法も一つの案だと考えている。
- 時間短縮はどれ位図れるのか。火葬炉の更新によるものなのか。そのほかにも方法があるのか。
- 新しい炉で15分位の短縮と聞いている。地域によっては、風習により告別ホールでのお別れをしないところもあるようだが、ここでいう時間の短縮は、あくまでも火葬炉の更新による短縮をイメージしている。

4 その他

- 本日、市営斎場についての検討を行ったので、次回の委員会は、実際に市営斎場をご覧いただいたらどうかと考えている。日中、現地集合の形となるが、いかがか。

〔一同了承〕

- 日程は、3月28日（水）の午後でどうか。

〔一同了承〕

- 詳細は、後日、改めて通知する。

5 閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		欠席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		欠席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 学生		出席

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 3 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)	企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時	平成 2 4 年 3 月 2 8 日 (水) 午後 2 時～ 4 時		
開催場所	市営斎場		
出席者	委 員	9 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人 (別紙のとおり)	
	事務局	5 人 (区政支援課長、他 4 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会議次第	1 視察内容 (1) 施設の概要等について (2) 視 察 2 意見交換 3 その他 (1) 検討委員会の進め方について (2) コンサルタントへの委託予定について (3) 次回日程		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

区政支援課長の進行により、後藤委員長よりあいさつがあった。

1 視察内容

(1) 施設の概要等について

事務局より、斎場施設の概要、視察行程等について説明があった。

(2) 視 察

建物外周及び建物内各施設（大小式場、式場控室、告別ホール、炉前ホール、炉裏、収骨室、2階待合室）を視察した。

2 意見交換

- 市営斎場を利用する際、利用者の宗教は問わないのか。
- 問わない。式場の祭壇はそれぞれ用意する。本市では場所を提供するだけである。

- 告別ホールでの最期のお別れの時間制限はあるのか。
- 例えば2時30分の火葬炉予約の場合、その時間までに火葬炉の中に納めていただくようお願いしている。早く到着された場合には、その分も含めて30分位行っている場合もある。
- 他市の火葬場では、火葬炉に納める際の最期のお別れという習慣がない地域もある。

- 宗派による最期のお別れの違いはあるのか。
- 到着して、棺を前に置き、ご焼香される形が一般的である。

- 市営斎場の整備費はいくらか。
- 用地費を除く、建物の建設に約35億円かかっている。このほか、周辺の道路・下水道等の整備を行っている。

- 年間の維持費は。
- 各種の委託等をすべて含めて、約2億5千万円の維持管理費がかかっている。使用料収入は約5千万円である。
- 修繕費はどれくらいか。
- 年度により修繕の内容で異なるため、一概には言えないが、大きなものとしては、年間2基ずつ行っている炉のレンガの積替えがあり、約1,800万円かかっている。

- 女性用トイレの増設と洋式化も必要ではないか。2階には女性用が3つのみで、和式が2つ、洋式が1つとなっている。
- 現在は、トイレも洋式が一般的なため、洋式化を検討していきたい。

- 前回提案した、火葬炉の効率的な運用に必要な待合室の分割については、使い勝手を考慮する必要がある。高齢者の利用も多いため、配慮が望まれる。
- 待合室に係る構造的な制約等について確認する。また、待合室は洋室を望む声も多い。洋室化を併せて行うことも考えられる。

- 式場の予約状況は。
- 式場は9割以上が予約で、平均で4、5日待ちの状況である。
- 民間の斎場の状況はどうか。
- 民間の式場の利用率は約3割で、式場を持っていない業者も多い。

- 式場の利用者は市内の方か。
- ほぼ市内の方である。市民を優先しているため、市外利用はほとんどない。

- 公共団体が式場を持っているのは当たり前なのか。
- 他市の状況を見ると、持っているところと持っていないところがある。

- 霊安室の利用状況は。
- 平成22年度は、205件で延べ669日の利用のため、1件あたり3日くらいの利用となっている。

- 増築を行うことは。
- 地域の方のご理解が得られれば可能であるが、地元との合意書では施設規模の拡大は行わないこととなっている。

- 駐車場は、もう少し増やせるのではないか。
- 敷地内にスペースを取れば、渋滞緩和の効果もあるため、検討する必要があると考えている。
- 渋滞は入りと出のどちらで起きるのか。
- 集中して入ってくるため、入りの方が起きやすい。
この周辺は、スーパー等もあり、午後6時頃は元々混んでいる。それに拍車がかかる状況である。できるだけ中に入れていきたい。
- 正門は閉じるのか。
- 午後9時過ぎに閉め、朝6時頃に開けている。

- 周辺の自治会との間で、何か対応していることはあるのか。
- 周辺の5つの自治会で、斎場連絡協議会をつくっている。
- 協議会とは、情報共有を行っているのか。
- まだ行っていないが、今後、委員会での検討状況について報告していきたいと考えている。

通常は、年1回の開催だが、指定管理者制度を斎場に導入することを提案している関係で、近年は、年2・3回開催している。

周辺の方からご心配いただいているのは、主に渋滞と植栽の管理についてである。周辺に隣接して住宅があるため、日照と景観に配慮している。

- 指定管理者制度とは何か。
- 公の施設の管理運営について、民間事業者等に委任するもので、サービスの質の向上や、業務の効率化、管理経費の節減等が期待される。市では、これまで約150施設に指定管理者制度を導入している。
- PFIとは何か。
- 初期投資から民間が資金を調達し、施設整備を行うものである。宇都宮市の斎場も設計段階からPFIを導入し、整備を行った。その結果、建物内の動線等も工夫されている。

3 その他

(1) 会議の位置づけの変更等について

事務局より、会議の位置づけが平成24年度から、「附属機関の設置に関する条例」に基づく規則設置の附属機関に変更となることについて説明があった。

(2) コンサルタントへの委託予定について

事務局より、平成24年度にコンサルタントへの委託を予定している旨説明があった。

(3) 次回日程

調整の結果、5月16日(水)午後7時からとなった。

以 上

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		欠席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 学生		出席

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)		企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時		平成 2 4 年 5 月 1 6 日 (水) 午後 7 時 ~ 8 時 5 0 分		
開催場所		市役所本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	7 人 (市民部長、区政支援課長、他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 市営斎場に係る課題と対応について (2) 検討委員会での質問事項について (3) 調査について (4) その他 4 その他 次回日程 5 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長からあいさつを行った。

「相模原市新たな火葬場のあり方等検討委員会規則」の施行に伴い、4月1日の委嘱状を交付。

事務局より同規則について説明が行われた。

3 議 題

冒頭、委員長から事務局に対して、傍聴希望者の有無の確認がされ、事務局より傍聴希望者が2名いる旨報告し、傍聴者2名の入場が許可された。

事務局より、新たな火葬場のあり方等検討委員会運営支援等業務委託の受託業者の紹介を行った。

(1) 市営斎場に係る課題と対応について

事務局より、第3回委員会に引き続き「市営斎場の機能拡充」について、次の「想定される対応策」の順に説明を行い、質疑応答を行った。

火葬炉の稼働率を上げる

- ・火葬時間を短くする
- ・早朝や夜間も火葬する
- ・待合室を増やす

火葬炉を増やす

- ・現在のスペースに増設
- ・火葬棟を増築

【市営斎場の機能拡充についてー火葬時間を短くする】

事務局より、火葬炉の稼働率を上げる方策と課題についての説明を行った。

案1 火葬設備の更新による時間短縮

最新設備では、市営斎場より火葬1件あたり約15分短縮できるが、火葬設備

全体の入れ替えに約5億円かかる。

〈質疑なし〉

案2 葬儀の儀式の省略による時間短縮

告別ホールでの読経・焼香の省略などによる時間の短縮が考えられるが、地域の風習、ご遺族の心情に配慮が必要。

〈質疑なし〉

【市営斎場の機能拡充について一早朝や夜間も火葬する】

事務局より、現行の火葬可能件数の19件より増やす方策とその課題について説明を行った。

案3 早朝や夜間の時間帯に火葬枠を新設する

9時30分前、午後3時以降の設定は可能だが、課題は利用希望が昼前後に集中することである。

〈質疑なし〉

案4 火葬時間枠を30分繰り上げる

午後3時の枠の火葬可能件数が2件増加し、年間約600件の火葬可能件数が増加するが、9時と10時で胎児、改葬、四肢の火葬と重複し、最大6炉を使用することが想定される。

○ 炉の同時利用が多いことが課題であるなら、一般の火葬を3枠から2枠に減らすことはできないのか。

● 2枠に減らすことは可能だが、そうすると一般の火葬可能件数が減ることになる。

案5 午後3時の枠を30分繰り下げる

午後3時30分枠の火葬件数が2件増加するが、課題は終了時刻が遅くなることと、夜間の利用希望が少ないこと。

○ 胎児等の火葬時間と一般の火葬は重複しないのか。

● 重複はしない。

【市営斎場の機能拡充について一待合室を増やす】

事務局より市営斎場の機能拡充のため、待合室を増やし、火葬件数を増やす方

策と課題について説明を行った。

案6 午後3時の枠に会議室を待合室として追加する

午後3時の火葬件数が1件増加するが、現在、臨時の更衣、授乳スペース等として会議室を活用しており、代替機能の確保が必要となる。待合室としての改修、備品の整備も必要になる。

- 更衣・授乳スペースの確保については、2階の待合室の改修の中で、工夫の余地があると思われる。

案7 式場使用時の未利用待合室を活用する

午前11時30分及び午後0時30分の枠で、式場の控え室を利用している時に未利用となっている待合室を活用することで、火葬可能件数が1日当たり2件、年間約600件増加するが、告別ホールを3室から4室に増設することが必要となる。

案8 待合室の分割を行う

現在ある7室の待合室のうち3室を分割し、合計10室とする。理論上は、各時間枠当たりの火葬可能件数が各1件、1日あたり6件増加し、年間で約1,800件増加する計算になる。

- 年間の火葬件数は最大どれくらいになるのか。
- 推計データが平成50年までとなっているが、平成50年までは上昇傾向にある。
- 相模原市は厚生労働省の人口問題研究所の推計データと人口の増減のズレがあり、全国的に人口が減少する中で相模原市は増えている。
- 大規模改修をしなければならないが、どれくらいの内容でどれくらいの金額がかかるのか。
- 一般的には屋根の防水や外壁、電気設備、空調設備と内装が見込まれる。火葬炉設備の入替も検討が必要。全体事業の推計はまだ行っていない。
- 火葬炉設備の全体を新しくしたことはあるのか。
- 火葬炉内の耐火レンガの積替えは定期的に行っている。
- 火葬炉設備の大規模改修の必要性は。
- 大規模改修時には、入れ替えの必要性があると考えている。
- 火葬可能件数の受入数を増やす事は短期的な対応で、火葬炉を増やす事は長期的な対応になると思うが、問題を先送りしているだけではないのか。長期的

な対応を考えなければ、厳しいのでは。

- 長期的な対応の検討が必要と考えている。他市の例では、どこも新しい火葬場の完成までには10年程度はかかっている。その期間も考慮しないと行けない。短期的な対応と併せて考えていく必要がある。
- そうであれば、財源も併せて考えていく必要があるのではないのか。10年たったらもっと財政は大変になる。そうするとさらに先送りになるのでは。
- 検討にあたっては、整備や運営の方法、運営の方法、また、財源の確保も考えなくてはならない。長期的な視点で考えていく。
- この委員会では財源のことも触れるのか。今の施設をどうするのかという問題もある。市内でのサービスの差もある。財政負担の平準化も当然考える必要はあるが、財源のことは委員会では議論できないのでは。
- 新しい火葬場を先に検討する方がよいのでは。施設の分散が必要では。
- 案が8まであり、それぞれ火葬可能件数を増やすとあるが、それぞれ独立しているのか、連動しているのか。組み合わせは可能か。課題がそれぞれあると説明があったが、どう理解すればいいのか。
- 理論的には組み合わせも考えられるが、課題がそれぞれあるため、組み合わせても課題は解消しない。組み合わせることは、難しいと考えている。
- 提示された案のうちどれが良いのか検討すればいいのか。
- そのように検討願いたい。

【市営斎場の機能拡充について－火葬炉を増やす】

事務局より市営斎場の機能拡充のため、火葬炉数を増やし、火葬件数を増やす方策と課題について説明を行った。

(2) 検討委員会での質問事項について

【トイレの洋室化について】

事務局よりトイレの設置状況についての説明を行った。

全て様式にすると、概算で約550万円の工事費が必要となる。

【駐車スペースの確保について】

事務局より駐車スペースの確保についての説明を行った。

敷地内の東側にある事業者用駐車場の隣接地に、約20台の駐車スペースの確保が可能と考えている。

- 駐車場はただ増やせばよいというものでもないと思う。増やすことによりさ

らに車利用を促す側面もある。

【斎場整備の経緯等について】

事務局より本市と他の2市の斎場整備の経緯について説明を行った。

- 地元との施設規模の拡大は行わないという合意事項に、駐車場は入るのか。
- 地元から渋滞対策が求められており、駐車場については地元の理解は得られるものと考えている。
- 待合室を縦に分割すると細長くなる。梁を張り出し、床を拡張する手法をとれば、あまり経費をかけずに2階の床面積を増やすことができると思う。

(3) 調査について

【火葬状況調査】

事務局より政令指定都市等における火葬状況調査を委託したこと及び葬祭等への意識・ニーズ調査を考えている旨説明を行った。

- ニーズ調査は、親族の火葬を行ったことがあるかないかで差があるのでは。市の火葬場を利用したことがあるかないかでも差が出る。
- 現施設の有効活用、抜本的な対策もしたいという事もあるので、並行して考えた方が良い。

4 その他

- 次回の委員会は、今後の検討の流れを考慮し、新しい施設の視察を予定したい。また整備の手法にPFIを導入している点も含め宇都宮市「悠久の丘」の視察を提案したい。市役所からバスを出す予定。
- 候補日をもとに審議をした結果、7月21日(土)に決定。詳細は、後日、改めて通知する。

5 閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		欠席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		出席

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)		企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時		平成 2 4 年 7 月 3 日 (火) 午後 7 時 ~ 8 時 5 0 分		
開催場所		市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	6 人 (市民部長、区政支援課長、他 4 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 市民アンケート調査等について 4 その他 次回日程 平成 2 4 年 7 月 2 1 日 (土) 5 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長からあいさつを行った。

3 議 題

冒頭、委員長より傍聴希望者の有無について確認され、事務局より傍聴希望者が1名いることが報告され、傍聴者1名の入場が許可された。

(1) 市民アンケートについて

事務局より、客観的なデータだけでなく、市民の意向把握のための市民アンケートについて、調査地域、対象者、抽出数などの概要について説明を行うとともに、今後の新たな火葬場のあり方に関する検討の参考とするために、平成22年10月に実施した、市政モニターの結果についても参考に説明を行い、質疑応答を行った。

【市民アンケートの概要・案】

調査地域 相模原市全域

対 象 者 20歳以上の市内在住の男女の個人

抽出数、対象 3,000人(住民基本台帳からの等間隔系統抽出)

実施の方法 調査票を郵送し返送してもらう無記名の形で実施

実施の時期 本年8月頃

設問数 基本的な情報を含めて20問程度

- 等間隔系統抽出とはどういったものか。
- 例えば1000人の名簿がある時に、10番目、20番目、30番目と等間隔で抽出する方法。
- 参考資料で説明のあった市政モニターとは、市民のボランティアなのか。
- 市政モニターという制度に基づき、モニターとして登録していただいているボランティアの方である。
- 市政モニターのアンケート結果では、比較的、従来型の葬儀が望まれている

ものと思われるが、自分の葬儀をどうして欲しいのかということと、両親を送る時にはどうしたいのかは違うと思う。例えば年齢層の話があったが、これによってもこれからの望ましいと思う葬儀の形は違ってくると思われる。

アンケートを行うなら、自分はどようされたいのかという聞き方をされる方が緊張感があり、若い方もお年寄りの方も、同じスタンスで答えられるのではないかと思う。

また、津久井の方と南の方で、どのように抽出するのかなというバランスの問題もある。人口だけみると津久井の方が圧倒的に少ないため、どういう割合で抽出し、バランスをとるのかというのを考えないといけないのではないか。

○ アンケートの実施者は誰になるのか。市長名で行うのか、委員会として行うのか。また、アンケートの中身が出てきていないため、アンケートで何が知りたいのかなどのイメージがわかりにくい。

● この調査は、基本的には市長名で、市が実施するものと考えている。設問については、本日、委員の意見を伺った上で、案を整理したいと考えている。今日の段階は、例えば、平成22年度に新しい火葬場の関係を市政モニターで聞いているが、こういう設問は引き続き必要だとか、あるいはこういう視点での設問が必要ではないのかなど、フリーに意見をいただき、整理をしながら形にしていきたいというのが趣旨である。

○ 平成22年度の市政モニターの結果は、どこにどう生かされたのか。方向性についての検討は行われたのか。

● まず平成22年度のモニターの結果をふまえて検討を行った。この検討委員会を設置したこと、委員会に外部の専門の先生方や皆さんに入っていたことも検討の一つの成果であると考えている。

市政に関心のあるモニター200人と、無作為抽出での3,000人によるアンケートでは、統計上の意味が異なってくると思っている。

これまで、この検討委員会で検討していただくに当たり、いろいろなデータを提供しているが、このアンケート結果についても、検討にあたっての重要な参考データとなるものと考えている。

アンケート対象者の抽出方法については、一部の人口が多いところの意見が市全体の意見にならないように配慮していきたいと考えている。

他の基本計画の策定においても、審議会でも検討をいただく際に、アンケート結果を参考にするケースがある。今後、委員会からの提言を踏まえ、市としての基本構想を作成するが、基本構想を作成する段階でできるだけ広く市民の意見を反映していきたいと考えており、このアンケートについては、市が実施する中で、広く市民の意見を聴く大事な情報の一つだと思っている。

設問については、直接的な答えについての問い掛けではなく、市民のニーズ

を探れるような形を考えたい。先ほど良い案をいただいた。一般的な家族の火葬の経験の他、例えば緊張感を持って回答していただくために、自分の葬儀について伺うような提案をいただいたので、それについても検討したいと思っている。

現在、お亡くなりになられた市民の9割弱の方が市営斎場で火葬されているが、調査においては、今後さらに、市営斎場のニーズが高まるのかなど、いわゆる意識の変化に伴う統計上の数字の変動も見ていきたい。

アンケートの結果は、委員会における検討の裏付けや、議論をする過程での参考にしていただきたいと考えている。

調査は市が責任をもって行う。最終的な設問の表現などは、技術的な話にもなるため、総論的な視点での意見をいただきたい。

本日は、イメージを持っていただくために、平成22年度のモニターアンケートを用意した。これを参考に、意見を自由にいただいた中で、設問を検討していきたいと考えている。

- アンケート調査の際、基本的な情報が少しあった方が、答え方も変わってくるのではないかと。
- 一般的にアンケートを実施する場合には、目的や課題を文章で入れたり、データで示したりすることをしている。今回のアンケート調査も、市が実施する一般的なアンケートの形に沿っていきたいと考えている。
- 新たな火葬場のあり方等検討委員会での議論の中では、いくつかの選択肢があった。現斎場を頑張って使っていこうという話と、それでも限界があるから、やはりもう一つ必要ではないのかというもの。

お金があるのかということもよく話題になる。市民も当然心配すると思う。財政的なプライオリティの話も、市民には関心がある。火葬場よりもっと重要なものがあるという市民もいるはず。しかし、誰でも必ず一回は使うものであり、事業としてのプライオリティを前面に出す工夫も必要ではないかと考えている。

(2) 斎場（火葬場）調査

事務局より、他市の斎場（火葬場）に係る調査案の概要について説明を行い、質疑応答を行った。

【斎場（火葬場）に係る調査 調査項目・案】

- ・施設について
- ・運営について
- ・火葬・葬祭式場について

- ・他市の斎場を利用した場合の助成制度について
- ・周辺の他市等の火葬施設との連携について
- ・火葬施設を取り巻く課題について

○ 調査の対象は、どの程度を考えているのか。

- 政令指定都市の全てと、例えば30万人、40万人以上などの一定規模以上の都市や神奈川県内の火葬場を有する自治体を考えている。また、愛川聖苑など、実際に市民が利用している近隣の自治体の状況も把握が必要と考えている。

(3) 市営斎場の概要について

事務局より、斎場で毎年まとめている市営斎場の火葬の状況等の資料の改訂版について説明を行い、質疑応答を行った。

○ 市民とか市外とか、津久井4町のところにあるが、これは亡くなった方が市内の方かということか、それとも喪主のことか。

- 亡くなった方のこと。

○ 質問、意見の追加等はどうか。なければこれで議題は終了としたい。

4 その他

事務局から、次回の宇都宮市〈悠久の丘〉の視察について説明を行った。

- ・平成24年7月21日（土） 午前9時から午後5時

5 閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		欠席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		欠席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		出席

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 6 回新たな火葬場のあり方等検討委員会 (視察)		
事務局 (担当課)		企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時		平成 2 4 年 7 月 2 1 日 (土) 午前 1 2 時 2 0 分 ~ 1 4 時 2 0 分		
開催場所		宇都宮市「悠久の丘」(斎場)		
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	5 人 (区政支援課長、他 4 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
視察内容		1 あいさつ 2 施設概要説明 3 施設見学		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(□は視察先の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 あいさつ

宇都宮市側からのあいさつに続き、相模原市側から委員長があいさつを行った。

・宇都宮市側出席者

宇都宮市生活安心課 2名

S P C (特別目的会社) 宇都宮郷の森斎場株式会社 1名

悠久の丘関係職員 3名

2 施設概要説明

施設見学の前段で、宇都宮市より資料及びパンフレット等に基づき、悠久の丘の施設概要について説明を受けた。

(1) 新斎場整備の方針

【移転新築による再整備】

- ・本市の斎場(旧山本斎場)は建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が進行していることに加え、今後の高齢社会の進行により、現施設の火葬能力では、火葬業務そのものに支障が生じるおそれがあった。
- ・平成13年3月に「宇都宮市斎場再整備基本計画」を策定し、火葬需要のピーク時を踏まえ、移転新築による再整備方針を決定。
⇒平成21年3月の供用開始を目指して整備を行った。
- ・事業手法は、財政支出の平準化、事業費の削減、及び市民サービスの向上の観点から、整備・運営にP F Iを導入し、平成21年3月15日に供用を開始。
- ・優先交渉権者がS P C (特別目的会社)を新たに設立、市が指定管理者として指定し、S P Cが事業契約に基づき施設の設計、建設、20年間の運営・維持管理等を行う。
- ・S P Cが施設を建設後、速やかに所有権を本市に移転する。(B T O方式)

(2) 計画の概要

【整備基本コンセプト】

～聖なる地の創造をめざして～

- | | |
|--------------------------|------------|
| ○緑と静けさにつつまれた斎場 | = 「安らぎ」の提供 |
| ○ゆったりとした空間を有した斎場 | = 「ゆとり」の提供 |
| ○安心して利用できる十分な機能を有した斎場 | = 「安心感」の提供 |
| ○最後の別れにふさわしい雰囲気・景観を有した斎場 | = 「荘厳さ」の提供 |

【施設概要】

- ・敷地面積 96,496.55 m²
⇒主要施設ゾーン約 30,000 m², 進入道路・緩衝緑地等約 66,500 m²
- ・施設延床面積 [火葬棟] 9,616.49 m² [式場棟] 2,145.81 m²
- ・建物構造 R C造 地上2階建て
- ・主要施設 [火葬棟]
火葬炉 16基,
緑のお別れ室 4室, 水のお別れ室 4室,
お別れ室 4室 (多目的利用),
待合室 (洋室 14室, 和室 2室),
キッズルーム・ベビールーム各 1室
[式場棟]
式場 2室 (最大各 150名),
式場控室 2室, 通夜控室 2室
- ・駐車場 普通車など 360台,
障がい者・高齢者などのスペース 6台,
中型バス 22台, 大型バス 2台

※施設延床面積・待合室・告別室・収骨室・駐車場等は, 事業者提案による。

3 施設見学

S P C職員の案内により、施設見学を行った。

以 上

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	欠席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		欠席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		欠席

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 7 回新たな火葬場のあり方等検討委員会			
事務局 (担当課)	企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)			
開催日時	平成 2 5 年 1 月 3 1 日 (木) 午後 7 時 ~ 8 時 5 0 分			
開催場所	市役所本館 2 階 第 1 特別会議室			
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	6 人 (市民部長、区政支援課長、他 4 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 2 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 市営斎場に係る課題と対応について (2) 提言書の策定について 4 その他 次回日程 5 閉 会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長からあいさつを行った。

3 議 題

冒頭、委員長より傍聴希望者の有無が確認され、傍聴者2名の入場が許可された。

(1) 市営斎場に係る課題と対応について

事務局より、火葬件数の将来推計をもとに新たな火葬場の整備の必要性について説明を行った後、意見交換を行った。

〔説明概要〕

- ・平成23年度の火葬件数の実績は4,548件。平成54年が火葬件数のピークで、9,036件の見込み。
- ・短・中期的な対応として行う待合室の改修により、推計上は平成39年頃まで火葬需要への対応が可能。それ以降は火葬需要が上回るため、対応が必要。
- ・市営斎場は、建築後おおむね30年から35年で大規模改修が必要となる見込み。また、新たな火葬場の整備期間は、他市の例では10年から15年程度を要している。

NHKのクローズアップ現代で、市営斎場で火葬まで10日間も待たされた例が紹介されたが、現在もそういう状況なのか。

年間で最も混雑する年末年始の時期であれば、式場が2つしかないため、長くお待ちいただくこともあり得る。火葬の場合は、平均で3～4日、混雑する時期では5日程度の待ち日数となっている。

新たな火葬場の整備について、本委員会では整備が必要であるとの結論としたい。

待合室の分割は、この委員会でもご議論いただいております。来年度取組みを進めていきたい。

大規模改修の期間は、今の施設は全く使えなくなるのか。

大規模改修の方法は様々で、他市では、火葬炉を稼働しながら行うところもある。

大規模改修のスケジュールを併せて見ると、平成39年度までに同程度の新たな火葬場をどこかにつくっておくことが必要なのではないかと。

そこが一つの目安だと考えている。

事務局より、新たな火葬場の整備の方向性として、規模（炉数）、機能（式場併設、環境への配慮）などについて説明を行った後、意見交換を行った。

【規模（炉数）について】

〔説明概要〕

- ・23年度の火葬件数が約4,500件、54年のピークには9,036件ということで約2倍に増加する見通し。

50年後には人口が相当減ると言われており、それも考慮する必要がある。

新しく作る火葬炉に関しては、この先を考えるとあまり大きなものは考えにくいのではないかと。

単純に火葬件数が2倍になるから、火葬炉の数も2倍という考え方ではなく、たとえば1.5倍などになっていくのではないかと。

この場で火葬炉の数を決めるつもりはない。あくまでも様々な方向性について議論していただくのが趣旨。例えば、火葬施設は一回作るとすぐに作り直せるものではないため、稼働させる炉の他、将来、炉を増設できるスペースを確保しておくという方法も他市では行っている。

【機能（式場併設）について】

〔説明概要〕

- ・県内では、式場の併設割合は60%。中核市や政令指定都市などでは4割くらいが併設となっている状況。
- ・周辺の南多摩斎場、八王子市斎場、愛川聖苑、大和斎場、上野原市周辺市町の式場では、上野原市が火葬のみで、それ以外は式場が併設されている。
- ・市内には民間の葬斎事業者が45社あり、うち建物を持っている事業者が9社、式場が33会場（室）となっている。緑区が9、中央区が13、南区が11となっている。なお津久井地区の民間の式場は、現在一か所だけとなっている。

式場併設の有無は、以前からそこに式場があったかどうかにも影響するのでは。その影響も大きいと考えている。

式場の併設が望ましいということではなく、式場の併設が望ましいかどうかについて、ご議論をお願いしたい。

家族葬が流行っており、小さい式場の希望が多くなると思う。

民間事業者は、小さな式場での家族葬をPRしている。民間が行う方がよいのか、行政が行う方がよいのかについても、議論があるところ。

市営斎場と民間斎場では価格差が大きいと言われるが、具体的にはどうか。

本市の斎場の場合、比較が難しい状況にある。本市の市営斎場の式場は貸室のため、祭壇は一般的に事業者の持ち込みになる。クローズアップ現代では、民間の式場と20万円の差という話だったが、民間の式場では会場に祭壇がセットされており、その込みの価格となる。本市の場合、大式場で市内の方は5万円だが、祭壇を含めた価格で比較しないとわからない。

公的な施設は安いというイメージからの意見ではないか。

施設整備は10年・20年先のため、多目的ホールとか、用途に応じて大きさや間取りなどを変更できるように考えていくことが望ましい。

民間の式場が市街地にできると、近隣から反対の動きが起きる。ユーザーという立場ではなく、地域側で考えると、そのあたりが心配である。

火葬炉と式場は分けて考える必要がある。いずれにしても行政が全てをそろえることは不可能なため、民間の事業者の力をいただく必要がある。その際、役割分担をどう考えるべきかという議論だと考えている。

私は式場の併設には積極的に賛成ではない。市営斎場の式場は、2つでは少なかつたのではないかという気がするが、民間の事業者も作られて、33会場まで増えてきている。ただ、津久井地域に民間斎場が1か所ということは留意すべき。

旧4町の中に1つしかないのは、少ない。新しい火葬場の位置とも関係する。価格の話も出たが、行政が安い必然性はなく、民間と同じ単価でも良いと思う。民間でやってもらえるなら、それにこしたことはない。火葬場と式場は必ずしもセットで考える必要はなく、むしろ分けて民間にやってもらうのが良いと思う。民間は柔軟な対応が可能であり、工夫もできる。併設で考えるのはいかなものかという意見に賛成。

この件に関しては、いろいろな意見があるということで、整理を進めたい。

家族葬の話があったが、待合室とか炉前ホールなどで、家族葬を行える設計になっている火葬場もある。また、小さい葬儀が出来るところもある。価格の

面では、厚木市では市内の事業者と調整し、「市民の葬儀」として、価格を明示した葬儀をメニュー化している。

【機能（環境への配慮など）について】

〔説明概要〕

- ・運営面での機能の参考として、他市における施設内の工夫や立地環境の工夫、動物炉の設置などの特徴的な取組みを紹介。

参考として他市の事例の説明があったが、提言は火葬場のみとするのか、式場との併設を求めるのかによって考え方が大きく違ってくる。式場がなければ駐車場の台数もそれほど多くは必要なくなる。その点は、どのように考えているのか。この場で考えるのか、市が基本構想や都市計画の中で決めていくのか。

式場を併設するか否かは民間との役割分担も含めて検討が必要であり、当然、委員会の中でも検討していただく項目であると考えている。

条件が不明確な中で機能の話をされても考えにくい。

動物炉の関係について確認したい。動物炉に反対される地域がある一方で、ペットも家族と一緒にだから必要だという意見もある。ご意見をいただきたい。

周辺では愛川聖苑が設置している。まだ設置しているところは少ないが、動物炉を設置する施設は徐々に増えている状況。

動物炉に反対というのは、例えばどういう理由なのか。

動物の火葬と人間の火葬を同じ火葬場で行うこと自体に抵抗感を持たれることがあると聞いている。

これからの傾向として、ペットを本当の家族のようにという方が増えており、家族葬と同様、ペット葬のニーズが高まると思われる。

【アンケート調査の中間状況について】

事務局より、「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート」の中間の取りまとめ状況について説明を行った後、意見交換を行った。

〔説明概要〕

- ・単純集計における中間とりまとめにおける傾向について説明。
- ・家族葬（ 1 ） 一日葬（ 2 ） 火葬式（ 3 ）による葬儀への関心度。
 - 1 家族葬：家族、親族やごく親しい方々のみで通夜・告別式等を行い、故人をお見送りする葬儀
 - 2 一日葬：通夜は行わず、火葬当日に告別式を行い、故人をお見送りする葬儀
 - 3 火葬式：通夜・告別式等を行わず、火葬だけを行い、故人をお見送りする葬儀

- ・ 家族の葬儀の希望、自分の葬儀の希望の状況。
- ・ 葬儀の経験の状況、葬儀を行った場所、その場所を選んだ理由。
- ・ 火葬に利用した施設、その施設を選んだ理由。
- ・ 市営斎場までの移動時間。
- ・ 市営斎場の改善を要する点等や、火葬場のあり方への自由意見の状況。

クロス集計でみないと、細かい状況が見えてこない。

自由記述は個別の意見の状況が知りたい。

次回までに資料化して、事前に送付したい。

市営斎場の式場は貸館方式とのことだが、実際に式を取り仕切るのは事業者ということか。

本市の式場でも実際は葬儀業者が入っている。

事務局より、火葬炉の使用料の関係と、提言書の関係について説明を行った後、意見交換を行った。

〔説明概要〕

- ・ 政令指定都市及び近隣市町の火葬料金、火葬炉の使用料について説明。

火葬のコストはどれくらいなのか。

概算で、年間の経費が総額 2 億 5 千万円程度で、使用料収入が約 5 千万円。この差引を年間の火葬件数約 4 , 5 0 0 件で割ると、1 件当たりの火葬コストは約 4 5 , 0 0 0 円となる。市民については、これを無料にしている。

水泳場だとか公園は、行きたくなければ行かなくてもよいが、火葬場は、そこに行かなければ用をたさない訳なので、原則無料という考え方が出てくると思われる。

個人的には、ずっと税金を払っているのだから、最後で有料にしなくてもいいのではないかと思う。

私は受益者負担にはなじまないと思う。ほぼ 1 0 0 % 市民の方が使う施設なので、もし受益者負担の議論にのせるなら、一般の公園も同じ俎上にのせて議論すべきだと思う。

(2) 提言書の策定について

事務局より、提言書のイメージについて説明を行った。

〔説明概要〕

- ・提言書のイメージは、現状と課題、相模原市における火葬場のあり方、その中で、市営斎場の機能拡充と新しい火葬場の必要性、新斎場の施設整備のあり方など。
- ・本日までにいただいた意見をもとに、こういう枠組みの中で、事務局の方で素案を作成し、それを提示させていただき、議論をお願いしたい。

4 その他

次回の日程について、候補日をもとに検討した結果、2月28日（木）に決定。時間は午後7時から。

5 閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		欠席

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 8 回新たな火葬場のあり方等検討委員会		
事務局 (担当課)	企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)		
開催日時	平成 2 5 年 2 月 2 8 日 (木) 午後 7 時 ~ 9 時 1 0 分		
開催場所	市役所本館 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人 (別紙のとおり)	
	事務局	5 人 (区政支援課長、他 4 人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	2 人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 市営斎場に係る課題と対応について (2) 提言書 (案) について 4 その他 次回日程 5 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

冒頭、委員長より傍聴希望者の有無が確認され、傍聴者 2 名の入場が許可された。

(1) 市営斎場に係る課題と対応について

事務局より、「葬儀に対する意識、式場・火葬施設に関するアンケート調査」の取りまとめの状況について説明の後、意見交換を行った。

相模原市全体の家族構成からみて偏りがどれだけあるのか。単身世帯が少ない印象がある。

また、世帯区分で「子供と同居」、「親と同居」の整理が気になった。むしろ、この2つは、同じカテゴリーにして、クロス集計を掛ける方が傾向が見えてくるのではないか。全体として、クロス集計を見ると、家族の問題が如実に表れているのがよく分かる結果である。

子供と同居というのは。回答者は夫婦ではないということか。

母子家庭や父子家庭などが考えられる。

親子とも高齢の世帯も該当する場合があるので、年齢とのクロス集計をすべき。

世帯と年齢のクロス集計を検討したい。

平成 22 年国勢調査ベースの世帯区分の状況を報告。

国勢調査のデータでは、夫婦のみの世帯 19.2%、夫婦と子供の世帯が 31.3%で、アンケート結果とほぼ同様の割合。単身世帯は、国勢調査では 34.2%であり、委員の指摘のとおりアンケート結果とは開きがある。世帯構成については、再度整理したい。

相模原市営斎場を利用しなかった理由に、「市外で亡くなった」という答えがあるが、これはどのようなケースか。

相模原市に住んでいたが、市外の病院に入院してお亡くなりになり、入院先の土地で火葬するというようなケースが考えられる。また、実家や郷里で火葬

や葬儀を行うという例もある。

5年前であれば家族葬というのはあまり無かったかもしれない。これから増えてくると思われる。

家族葬について、このように高い数字は想定していなかった。すでに市民の生活の中でも一般的になりつつあるのではないか。

葬儀に行くことが多いが、家族葬は、経験的にはそれほど多くない。関心が高いのは分かるが、まだ、先の話という感じがする。市営斎場での、家族葬の実態はどうなのか。実態としてどれくらい増えているのか。

家族葬というと、家族だけという印象を受けるが、明確な定義はなく、香典等は遠慮して、葬儀を身内だけで行い、来られた方には対応するというものまで含めて家族葬と言っているのではないか。身の回りで、このようなパターンは増えている。

少子高齢化ということもあって、私が経験した中では、家族葬にならざるを得ない状況が多いと感じている。親戚も含めて、これからはかなり少なくなっていくと思う。

火葬の際の待合室を利用する人数は少なくなっている。

従来型のようにも、親戚が少ない場合などは、規模が小さくなるということもある。

告別式はほとんど身内だけということが多い。通夜でも参列者が少ないケースが最近多い。

津久井の方はまだ昔ながらの付き合いがあるため、施主が家族葬でやると言っても、親の時代の付き合いから葬儀に行くということもある。

気になるのが、若い人が従来型を選択しているということ。本当に考えて従来型と答えているのか。

確かに、結果をみると、データはそろろうが、これをどういうふうに結び付けるのかが問題である。

細かく分析すればするほど、難しくなり、必ずしも合致することが導かれるとは限らない。

意見の中で、市営斎場だと安心という意見がかなりあったが、葬儀には事業者が入るので、その事業者に大きく左右される面がある。NHKのクローズアップ現代だと民間の斎場と20万円くらい差があるという話だったが、やり方によって幅があり、全然違ってくるため、経費の比較は難しい。

自由意見には、「利用したことがないからわからない」という意見のほか、「情

報がない」という意見もあった。これからは積極的に広報していく必要がある。気軽に情報が入手できるような広報の仕方なども必要と思われる。

自分の葬儀を事前に考えてくことを「終活」というそうだが、これからはお墓だけではなく、「終活」も大事だということを提言に入れてはどうか。

市民レベルでは、エンディングノートの書き方などについて、NPOが取り組みを始めている。市でも講座を開催するような取り組みがあってもいいのではないか。

問14と15の回答については、火葬場と式場を混同して書かれている。そのため、式場が高いとか安いとか言われているが、葬儀の経験が無い人とある人では知識や情報の差が大きい。費用の掛け方は本人が決める事であり、誰かが決めてくれることではない。高いといっても自分が質素にやろうと思えば、費用を抑えることはできる。

親戚が近くにいないなど、これまでの様に地域で葬儀をやる習慣が薄れてくると、いざという時に、市営斎場を知らず、手続きも不安だというようなことが増えていくと感じた。何らかの形で情報提供をする努力が必要だと思う。

アンケートの自由意見には、「市営斎場が遠い」とか、「人口が多くなったのもう一つ必要ではないか」といった意見があるが、サンプル数が少ないものは、取り扱いを考える必要がある。

特に火葬施設の所要時間については、サンプル数があまりないということがあるが、地区の分析から、周辺に火葬施設のある地区の方が30分以内と答えられているのは傾向としてみえている。位置については、これから説明をするが、「車で1時間」という所要時間は、目安になると考えている。

1時間というのは妥当と思うが、根拠を問われれば、ここに帰ってくる気がする。

火葬場の位置について

市域と市営斎場の位置図をもとに、30分、60分で行ける距離について説明を行い、意見交換を行った。

市営斎場から1時間で相模湖くらいまでとのことだが、現実には1時間ではたどり着かない。曜日と時間にもよるが、城山、津久井辺りだと思われる。

土地の条件を抜きにして、市内のどこからも概ね1時間ということだけで考えると、東西に広がる市域のまん中ということになる。

高速が整備される影響は考慮されているのか。

高速の整備は考慮していない。さがみ縦貫道路と中央高速が結ばれることで、

相模湖や藤野の方にどのような影響があるかということは、判断が難しい。

要するに1時間かければ、どこか接点があるから、古淵のほかにもう一つ新しい火葬場をつくれれば、市域をカバーできるということか。

参列してもらうことを考えると、駅からの距離をどのように考えるかという利便性の問題がある。

厚木市は、相模川沿いに旧火葬場があったが、「森の里」の方に移した。議論の過程では、市域のどこからも同じくらいの時間で行ける条件で、何か所か候補地を選び、決めたとのこと。厚木市では、幹線道路など、車の交通を前提とした位置の選定を行ったとのこと。お通夜に会葬する方は必ずしも車で来られるわけではない。鉄道駅やバスなどの公共交通機関を皆さんはどのように考えるのか、ご意見を伺いたい。

参列者の利便性を考えてという回答者は、民間の斎場を利用している傾向がある。利便性を考えると駅に近い葬儀会場で、お通夜の場所と葬儀を行い、火葬を行う場所は別に確保して行なっている。いわゆる従来型で、会社の方も呼ぶような葬儀のスタイルの場合には、駅近くの民間のところと火葬場と、分離型の葬儀パターンもあり得る。

これから考えていく新しい火葬場は、人家から離れた立地にならざるを得ないことから、利便性を確保するのは難しい状況が想定される。利便性を確保するためには、民間事業者の葬儀会場の力を借りながらということをご提案してはどうか。

自由意見には、例えば最寄りの駅から離れていた場合、送迎バスを用意して欲しいというものもある。また、火葬場と斎場の両方とも、アメニティを問題にしている意見があった。緑が多く、何か落ちついて送りたいというような意見もあり、利便性と拮抗するが、そういう希望者もいることは、斎場と火葬場が一体型なのか、別々なのかということにも関係してくる。

アメニティという話があったが、火葬場は環境のよいところに作り、式場は独立してもう少し利便性の高いところへという話は説得力がある。行政としてそれを作るのか、民間に作ってもらうというスタンスでいくのかは、難しい話。

費用対効果の話もある。行政がつくると民間を圧迫するのではないのかという話もあった。個人的には、行政ができる範囲は火葬場の範囲と考えている。

アンケートの結果から、民間の斎場が「利便性」で選ばれていることは、明確になった。逆にいうと「利便性」という理由で、市営の火葬場に式場を併設するのはあまり意味がない。新たな火葬場を整備したとして、近隣に民間の斎場が無いという状況もあり得る。そのような場合には式場が必要だという議論は別にあるかもしれない。

単身者は直葬という希望が高い。行政の責務として、単身者の方が安心して

終焉を迎えられるということに配慮すべきと考える。

自分の葬儀について聞かれたときに、派手にやってくれ、大々的にやってくれとは、言いにくいもの。皆で静かに送ってくれというのが一般的な答えになると思うので、この結果をそのまま受け取ってよいかは疑問。

私は転勤族で、全国転々とした。今まで住んだところでは、だいたい火葬場があったが、葬儀式場はほとんど民間だった。相模原に来て市が行っているのを初めて知った。建替える前も相模原市ではそうだったのか。

今の市営斎場が初めてで、それまでは火葬場のみであった。

全国的には火葬場に式場を併設していないところが多い。一宮市の斎場では、火葬を待っている間も火葬場では待たずに、一度、民間の式場に戻り、火葬が終わる頃にまた来るというのが一般的だと聞いた。

先ほど意見があったが、お通夜の時は人が多いが、告別式当日はほとんど来られないことを考えると、式場と火葬場を併設する必要性は低い。まさに利便性がいいところにお通夜ができる施設があればよいということ。

火葬は推計では追いつかないと前回確認していただいた。あとは式場の判断が難しいところ。いただいた意見をまとめていきたいと考えている。

式場について心配なことは、市民との折り合いを市場原理に任せると、どこも利便性を求めるあまり、地域と軋轢が生じるという現実。そこは何らかの行政的な配慮やルールづくりなどの対応が必要ではないかと思う。

火葬施設をつくるにあたっては、法的な制約もあり、住宅地に近いところには建てられない。そうすると現実的に土地の用途が立つようなところは限られてくる。

候補地の選定について、三次市では、候補地について、立候補を求めた。8か所ほど立候補があり、その中から選考して決めていったとのこと。

立候補することによって何らかのメリットがあったのか。

三次市の場合、地元の希望で公園を整備し、桜を植えた。農産物の加工所なども整備し、雇用創出にも結び付けるなどの取組みが行われている。

立候補するのは誰か。

地域の自治会等の団体や、地権者が立候補できる。

よい案だとは思いますが、コミュニティが壊れるといった難しい面もあると思う。その影響も勘案しながら慎重に検討する必要がある。提言の仕方も難しさがある。

提言書には、新たな火葬場の位置をどのように記述するのか。

具体的な地名ではなく、考え方として、原案では市域のどこからも市営斎場か新たな火葬場のいずれかに1時間で行ける範囲でという形になっている。

せっかくの提言書なので、合築ということも可能性としてあっていいと思う。

既存の施設のリノベーションという視点も重要。例えば、閉校になった小学校の空き教室を他の用途で使っていくことを考えるべき。

自由意見の中で、葬儀や死というものが非日常的なものであり、それゆえ不安だという話があった。日常において多少まだ体が元気なうちに、非日常の自分の葬儀のイメージを作れるというのはすごく大事なこと。だから葬儀場とか火葬場というのを完全に日常から分離し、非日常でしか入れない、使えない空間にするのではなく、日常から何となく雰囲気が見えるという形にするという提案も、あっていいのではないか。

公園などとの併設は多い。隣には児童公園があったり、普段市民が憩いの場として使う。その隣には火葬場というようなイメージも良いのでは。

三次市も厚木市の斎場でも公園を整備している。周辺から遮蔽するというような意味もある。逆に、いまの提案は、もっと身近な空間がいいのではないかということであった。亡くなるということは非日常的なことなので、混乱されると思うが、それを解消するような方向で、何らかの手立てを打つべきだということ、提言に入れていくべきではないか。

火葬料金の受益者負担について

前回、宿題となっていた、火葬のコストについて説明を行った後、意見交換を行った。

〔説明概要〕

- ・ 平成15年度に使用料の見直しの積算が行われており、火葬棟の建設費を耐用年数で割り、火葬棟の運営管理費を足しこんだものを年間の火葬件数で割って出しているが、それによると、1件あたりおよそ7万円となっている。現在の状況に置き換えて試算してみると、平成23年度の決算ベースで、1件あたりおよそ4万8千円という状況になる。

市営斎場の6億5千万円というのは建設費だけか。用地費は入っていないのか。

入っていない。庁内で受益者負担全体の見直しが進んでおり、火葬場もその見直しの対象に含まれている。提言の素案には、前回いただいたご意見を踏まえて記載しているが、使用料を有料化することの是非については、十分検討すべきであると考えている。市民として最後を迎える時に有料の方がいいのか、それとも誰も公平なので無料とすべきか十分検討しなければならない。

新しい火葬場と現在の市営斎場の使用料は合わせる必要があるのか。

そこまで具体的に考えていないが、非常に悩ましい問題。

これからどういう提言をしようと、新たな火葬場の完成までには相当時間がかかるため、今の市営斎場の使用料については決着がついてしまう。それでも、

新たな火葬場の有料化を提言が担えるのか。

使用料を考える時にこういう視点も重要だということがあれば載せていただきたい。

新たな火葬場だけではなく、現在周辺の火葬施設を使っている人に補助することは、提言に盛り込まないのか。

提言の素案には盛り込んでいる。課題として残るので、載せていく方が望ましいと考えている。

(2) 提言書(案)について

事務局より、提言の素案の説明を行った後、意見交換を行った。

〔説明概要〕

- ・構成は、現状と課題と、課題解決の方向という形で整理している。
- ・現状については、現在の状況、将来の火葬需要予測のほか、本日議論いただいたアンケートを踏まえて、まとめていきたいと考えている。
- ・本日、特に葬儀を、非日常に直面した時のことをどう考えるか、情報提供と場合によっては相談の対応なども考える必要があるのではないかという議論や、民間の式場との役割分担ということも議論いただいたので、それも反映し修正作業を進めたい。

資料にアンケートの結果は付けられるか。

付けた方がよいと思う。

アンケートについての記載のところだが、自由意見は、確かに非常に大量で広範囲に渡っているが、全く触れないというのもどうか。関連する前のところに盛り込むなど、提言にも、少し自由意見を入れた方がいいと思う。

自由意見の中で、特に取り上げるべき意見があれば、「市営斎場のことがよく分からない」という意見もかなりあったので、載せていきたい。

こちら側の努力として、広報に力を入れていくという文言があってもいい。

そもそも大方針として、将来の火葬需要に対して、どのように対応するのかを整理する必要がある。現在、「市営斎場の機能拡充」、「新斎場の整備」、「周辺施設の利用」は並列になっているが、時間軸との関係や火葬需要のピークへの対応のあり方を明らかにすることが委員会の命題と考えている。

シナリオ1・2・3とか、A・B・Cとかの整理が必要なのではないか。

私も賛成である。根本的に解決する必要がある。

根本的な解決は、やはり新斎場の整備がないと難しいというのが、ここで議論された結論ではないか。

- ただ新斎場の規模で、人口推計からみると、中規模、小規模でもよいのではという問題ももっている。

そこも火葬能力の関係で悩んだところだが、今の段階で機能、規模を明示するのは難しいと思っている。前回、指摘いただいたように、提言素案では、その後の人口動態も踏まえ、その見極めをしっかりと行うようにという文案になっている。

この前、人口推計の見直しがあったが、どのくらいのピークになるか。少し変わっているはずだが。

今回の数字は、新推計をもとに修正したものである。

財政負担という表現は、提言の中で馴染むのか。例えば事業手法、事業のあり方についてとかそういう言い方のほうが良い。

修正する。

もう一回開かせていただいて、この提言を再度議論いただきたい。

次回日程は、3月末で調整させていただきたい。

閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(5 0 音順)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		出席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		欠席

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 9 回新たな火葬場のあり方等検討委員会				
事務局 (担当課)		企画市民局市民部区政支援課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 4 (直通)				
開催日時		平成 2 5 年 3 月 2 8 日 (木) 午後 7 時 ~ 9 時 0 0 分				
開催場所		市役所本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人 (別紙のとおり)				
	事務局	6 人 (市民部長、区政支援課長、他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 提言案について 4 その他 5 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〃 は委員の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開 会

2 あいさつ

区政支援課長の進行により、佐藤市民部長からあいさつを行った。

3 議 題

提言案について

事務局より、前回の宿題となっていた、アンケートの家族構成の区分についての説明が行われた後、「相模原市における新たな火葬場の展望 - 新たな火葬場のあり方に係る提言書 - (案)」の内容について表紙から順に説明が行われ、その後意見交換を行った。

(主な質疑)

火葬費助成の問題については、市営斎場を使いたいが、遠くて使えないという事情にも配慮した表現がよいと思う。

アンケートで、「市営斎場が遠い」とか「不便だ」といった意見が多いと想定していたが、意外と少なかった。

受益者負担の原則はよいと思う。しかし、新たな火葬場の整備に専念するという表現は少しきついと感じる。ここまで断定しなくても、十分議論すべきだということで、行政側に委員会から投げ掛ければよいと思う。

市としては、委員会の意見として、方向性を示してもらえればありがたいと思っている。

15ページで、受益者負担を原則として考えるとまとめられているが、火葬炉は受益者負担には馴染まないのではないか。例えば「原則とすべきという議論があった」というような表現にすべきと考える。

委員会として最終的な結論を出すことは難しいため、「原則とすべき」という表現は修正し「一層の議論を深める」という表現を加えたい。

具体的な表現については、事務局で検討してもらいたい。

15、16ページに様々なことが書いてあるが、その一つ、15ページにある「他の施設との合築」については、現実的にどういうものがあるのかと

いう気がする。むしろこの段階では、合築について具体的な記述はしない方がよいと思う。

合築や併設の具体的な例としては、斎場施設のアメニティを高めるという意味で公園との併設などがあるという意見をいただいた。

合築の検討というより、地域に親しまれる火葬場であるとか、地域と共存する火葬場といった表現にしておく方がよい。火葬場と式場の話が一つの文章になっているため、式場の整備に関しては、街中につくる場合として整理が必要。公園との併設ということでは、自由に出入りできるような緩衝緑地帯のようなイメージがあってもよいと思う。フェンスがあって、壁があって、ここから先は火葬場だというよりは、むしろ緩衝緑地のようなものを設置するという表現は、地域に親しまれるとか、地域と共存する火葬場というものとイメージが合致すると思う。合築は、難しい要素があるため、タイトルとしては使わない方がよい。

今の意見の内容でよければ、そのような形で修正したい。

そのようにお願いしたい。

全体的なストーリーはこれでよいが、気になる点が4つある。一点目は、火葬炉の待ち日数についてで、もう少し丁寧な説明が必要ではないかということ。二点目は、4ページにある待合室の利用現況についてはヒストグラムなどで分布を示しておくとうまいと思われる。三点目は、13ページの図について、時間軸と課題解決の方法をうまく整理していると思うが、初めて見る人にとっては、理解が難しいと思われるため、市営斎場の改修と新たな火葬場の整備がより明確になるように工夫できないかということ。四点目は、今後の進め方について、市役所の中の連携、組織内の協働ということを一項目入れてもらいたいということ。自由意見でも、事前の相談窓口を求めるものがあつたが、より一層、市民の視点からの連携を図ってもらいたいということを入れておくべきと考えている。

17ページの「特に」というところの「単身者の方も安心して人生の終焉を迎えることができる」という言い方は、逆に「単身者の方が安心して死ねない」という感じに聞こえる。むしろ、「市民の皆さんが安心して人生の終焉を迎えることができる」という表現の方がよいと思う。

「終活」の引用については、いかがか。

個人的にはよいと思う。踏まえていく必要がある。

12ページの「市営斎場の機能拡充」については、手法が3通り記載され

ており、結論は最後の手法なのだが、最後まで読みこまないとはよく分からない。採用した手法だけを強調した方が良い。

結論を強調する形に修正したい。

15ページに「ペットの火葬についてもニーズが高まる可能性がある」と記載されているが、人間の火葬について課題が多い中で、ペットのことまで記述できるのか。

とりあえず、人間の方に専念した方がよいのではないか。

少し表現を修正したい。

他になれば、事務局とこれまでの意見を参考に出来るだけ直して、完成させていきたい。

表現の修正については委員長と調整させていただきたい。完成版は皆さんに郵送する。委員長、副委員長には、完成した提言書を市長に提出していただく場面を設けたい。

特に気になる部分などがあれば、方法は問わないので、来週中に事務局へ連絡をいただきたい。

委員長あいさつ

市民部長あいさつ

閉 会

新たな火葬場のあり方等検討委員会委員出欠席名簿

(50音順)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	池田珠三子	相模原市消費者団体連絡会 副代表	副委員長	出席
2	市古 太郎	首都大学東京 准教授		出席
3	浮ヶ谷幸代	相模女子大学 教授		欠席
4	大越 孝子	公募委員		出席
5	小野沢良雄	相模原市自治会連合会 副会長		出席
6	勝乗 貞行	公募委員		出席
7	後藤 純雄	麻布大学 教授	委員長	出席
8	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 会長		出席
9	中西 知子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事		出席
10	山田 有紗	相模女子大学 卒業生		出席